

議員全員協議会

各地区説明会の状況等について説明

(12/11)

国土交通省（以下国）・千葉県（以下県）・町・成田国際空港（株）（以下NAA）から成田空港の更なる機能強化に関する地区説明会の状況等に関する説明を聞くため、議員全員協議会を開催しました。

はじめに川島雄一郎国土交通省成田国際空港企画室長からあいさつがあった後、企画空港政策課長から10月から11月にかけて地区集會施設で開催した説明会での意見・要望等について説明がありました。

そのあと、関口順一 NAA 地域共生部次長から、騒防法及び騒特法に関する区域指定に伴う対策（防音工事・移転対策等）について説明がありました。

次に、田中正直県空港地域振興課副参事から、騒

特法防止特別地区に関する区域指定（案）について説明がありました。その後、川島雄一郎国成田国際空港企画室長から、騒防法第1種区域に関する区域指定（案）について説明がありました。

議員からは、「第1種区域設定による集落分断の解消及び区域の拡大」「移転補償の内容、スケジュールの具体的な説明」「防音工事の内容」「夜間飛行制限の緩和・スライド運用」「NAAとの情報交換の場の設定」などを求める意見がありました。今後も地域住民との共生・共栄が実現するよう国、県、NAAの動向を注視していきます。

空港対策特別委員会

委員会協議会

(12/11)

本会議の休会中に委員会協議会を開催し、企画空港政策課長から3件の報告がありました。

航空機騒音測定結果については、町内で常時測定している6か所の測定局における7月から9月までの数値は前年度とほぼ同様の状況で推移しているということでした。芝山鉄道利用者駐車場利用状況について、8月から11月までの利用台数は10,385台で、前年度の同時期より1,448台の減少、料金収入は165万1,300円で、前年同時期より58万4,000円の減額となり、要因は6月から駅より250メートル離れた所に移転したことや人口減少による影響なのか、今後の状況をみていきたいということでした。また、成田ナンバー図柄入りナンバープレートについて、18作品の中から選考員の審査や、7市町の庁舎でのアンケート等により絵柄が選ばれ、国土交通省での審査を経て平成

30年7月ごろにデザインの決定があり、10月に交付が開始されるとのことでした。



移転後の芝山鉄道利用者駐車場



追跡 あの質問は… どうなった？



入学準備金

〔平成28年9月定例会〕

問 入学準備金は7月支給ではなく、3月までに支給できるよう取り組んでください。

答 現状では7月支給で行っていきたく考えています。
(学校教育課長)

〔平成29年3月定例会〕

問 入学準備金について、支給時期を入学準備に必要な時期に手立てを講ずるよう早急な改善を求めます。
(石渡悦子議員)

答 来年度国の要綱が改正されれば来年3月には支給できる可能性もあると考えます。
(学校教育課長)



こうなった!

小学校・中学校ともに 入学前の支給が決定

- 入学準備金は就学援助の一部です。
- 就学援助の詳細は学校教育課にお問い合わせください。

答 小学校も入学前の給付はできないか。
(石渡悦子議員)

問 支給したい気持ちはあるが、方向性が決まっています。
(学校教育課長)

答 中学校に関しては、支給できないか。
(土井秀敏議員)

〔平成29年9月
決算審査特別委員会〕

問 就学援助費を入学準備金として、次の予算で執行はできないか。

答 中學校に關しては、支給できるような方向で話を進めていきたい。
(学校教育課長)

視察してきました!



芝山町議会・多古町議会連絡協議会視察研修

芝山町多古町議会連絡協議会視察研修会が10月3日から4日の日程で開催されました。参加者は多古町から議員8名、事務局1名、芝山町から議員11名、事務局1名でした。初日の3日には、まず千葉県庁を訪れ、圏央道（大栄・横芝間）事業推進に関する要望活動として、千葉県知事に要望書を提出し、未開通区間の一日も早い完成を要望しました。

翌日4日は茨城県常総市役所を行政視察しました。平成27年の鬼怒川決壊にいたる豪雨災害からの復興計画のあらましと、圏央道常総IC周辺の開発方法、コンセプトなどを伺い、従来型の発想だけでなく工夫を凝らす事の重要性を感じました。今回の研修の成果を活かし、これからも住みよい町づくりを推進します。

(議長 土井秀敏)



議員視察研修

11月6日、石川県能登町の日本海倶楽部を視察してきました。日本海倶楽部は社会福祉法人佛子園が運営する障害者支援施設で、高齢過疎地でビール醸造による地域おこしを目的に開設されました。

施設は、能登半島の九里川尻湾の入江を望む高台にあり、この一帯は地ビール工房やレストラン、牧場などからなるリゾートエリアになっています。また、農作物を栽培するファームなどもあり、人と自然と動物が共に生きる場所です。入所者には職人が醸造したビールのラベル貼り、ボトル洗浄、野菜の栽培や弁当の盛り付けなど、幅広い作業を就労支援として提供しています。

視察では法人の方針や入所者数、作業内容や賃金の説明を受け、施設内を見学しました。人と人が直につながり支え合う素晴らしい施設で、町おこし、福祉支援両方の参考となり、大変充実した研修となりました。

(文教産業建設常任委員長 山口 清)

